

【大学図書館の整備について】についての一考察 ～明治学院大学を事例として～

2011年9月2日
明治学院大学 図書館
三上 耕一

明治学院大学

- 創立年1863年（ヘボン塾の開設年）
- 6学部15学科の文系大学
- 学部生数 12,243人 大学院生 364人
- 専任教員数 282人 専任職員数 166人
- 創始者 James Curtis Hepburn（ヘボン博士）
- 教育理念 「Do for Others 他者への貢献」

東京都港区に白金キャンパス 横浜市戸塚区に横浜キャンパス

横浜校舎図書館



白金校舎図書館



明治学院大学図書館

- 蔵書数 117万冊（白金77万冊 横浜40万冊）
- 閲覧席数 1,141席（白金620席 横浜521席）
- 雑誌タイトル数 11,911誌（和7,469誌 洋4,442誌）



「審議のまとめ」に対するスタンス



1. 様々な反応

報告、目標、業務モデル、評価基準、理想像、ビジョン、指針

2. 活用方法

学内的求心力になるのか。

補助金の設定や認証評価への反映が必要

大学図書館に求められる機能と役割



- 学習支援及び教育活動への直接の関与
- 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
- コレクション構築と適切なナビゲーション
- 他機関・地域との連携及び国際対応

科学技術・学術審議会, "大学図書館の整備について(審議のまとめ)." 文部科学省, 2010-12

→ 共通性と独自性 (建学の精神との関連性)

本学図書館独自の試みをどこに持つか

共通化・類似化する図書館の課題



- 利用者教育支援・情報リテラシー
- 連携（授業・学生・学内部署・外部機関）
- ラーニング・コモンズ
- 機関リポジトリ
- 地域公開
- 学生参加企画・サービス・アシスタント
- 展覧会・展示
- 図書館グッズ

取り組む課題の内容は類似的になる。

明治学院大学図書館の機能と役割



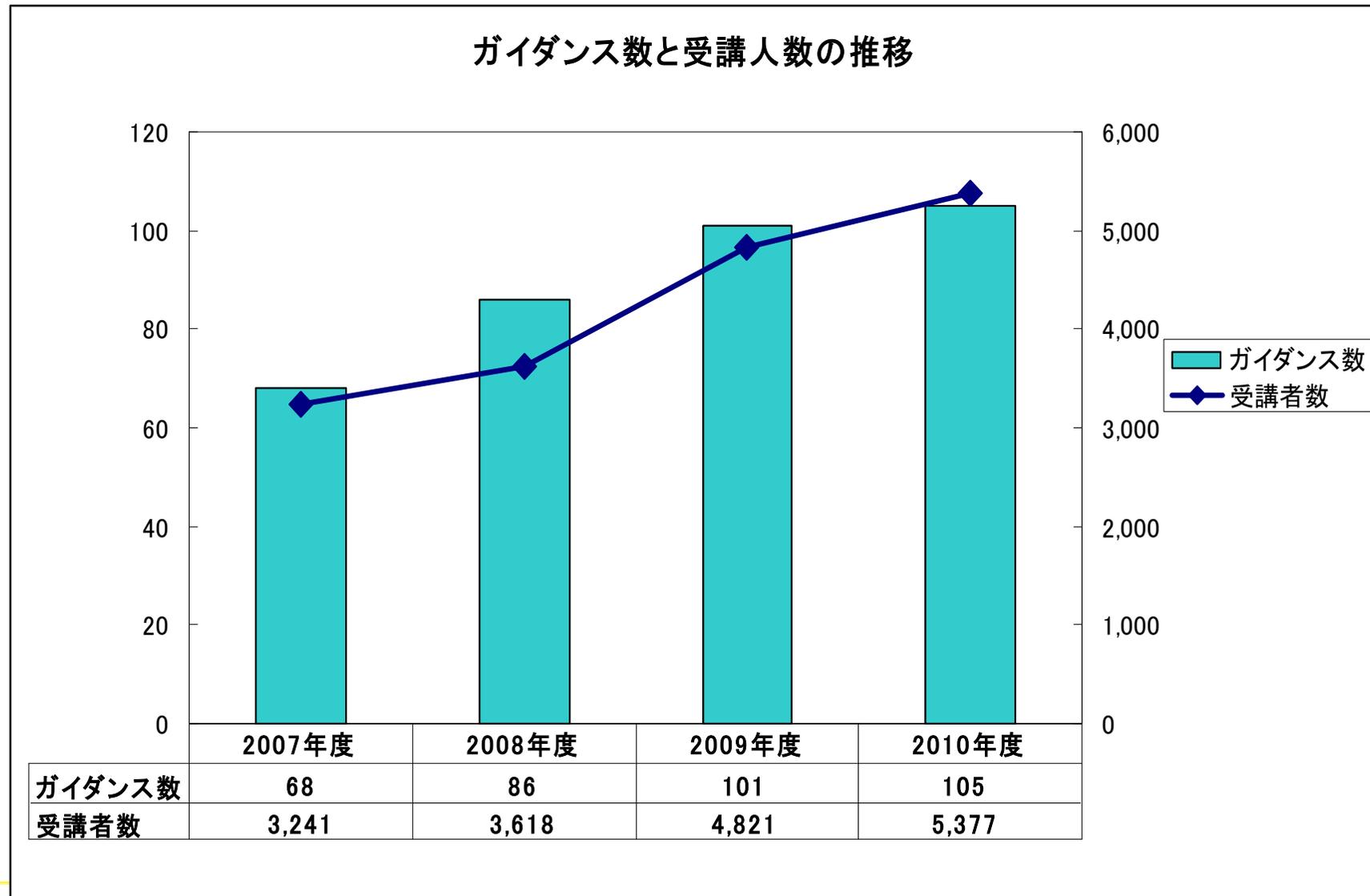
- 授業等におけるガイダンス
「独自性と標準性の融合」
- 機関リポジトリ 「ボトムアップ型の構築」
- 電子ジャーナルとナビゲーション
「量より仕組み」
- MLA連携
図書館付属日本近代音楽館の開館
「連携では無く付属」

独自性への模索

- 蔵書構築と情報発信
 1. 貴重書（「和英語林集成」等）
 2. 図書館付属日本近代音楽館の資料

- 学習支援へのアプローチ
 1. 系列校からの連続性
 2. ステップアップ型利用者教育

授業ガイダンスの需要の増加



ガイダンスの体系化

ステップ	内容
1	図書館の印象づけ「高校から大学へのつなぎ」 オリエンテーリング <入学前プログラム>への参加
2	明治学院大学の所蔵資料の入手方法を学ぶ OPAC 図書館ポータルの利用方法
3	テーマから資料入手まで（初級編） 基本的なデータベースの検索方法
4	テーマから資料入手まで（中級編） 目的別データベースの検索方法
5	情報整理法 文献管理ツールの活用

日本図書館協会「利用教育ガイドライン」に準拠した体系化

組織・運営体制の在り方へのアプローチ



- 図書館長と音楽館長の兼任及び
副音楽館長の設置
- 段階的な委託業務の導入
「委託」との距離感
- 組織モデルの構築と知識モデルとの連携
経営モデルとの調整

段階的な委託業務の導入

1990年度

目録業務の委託化

2002年度

白金図書館夜間カウンター業務の委託

2006年度

白金図書館カウンター委託業務の拡大と業者変更

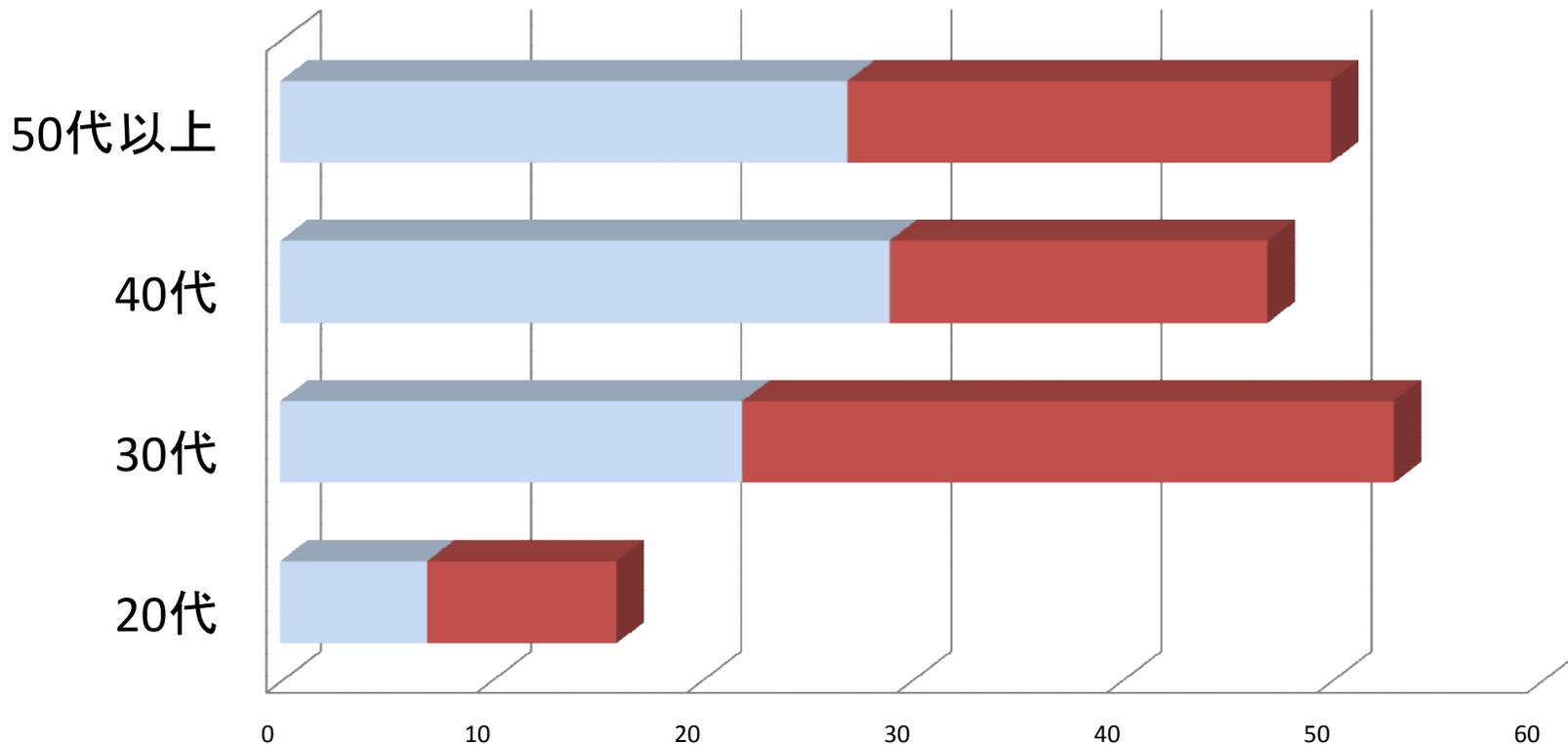
2009年度

横浜図書館カウンター業務の委託

☆ 現在までは図書館ペースでの委託業務導入

「全面委託未完の構図」の維持

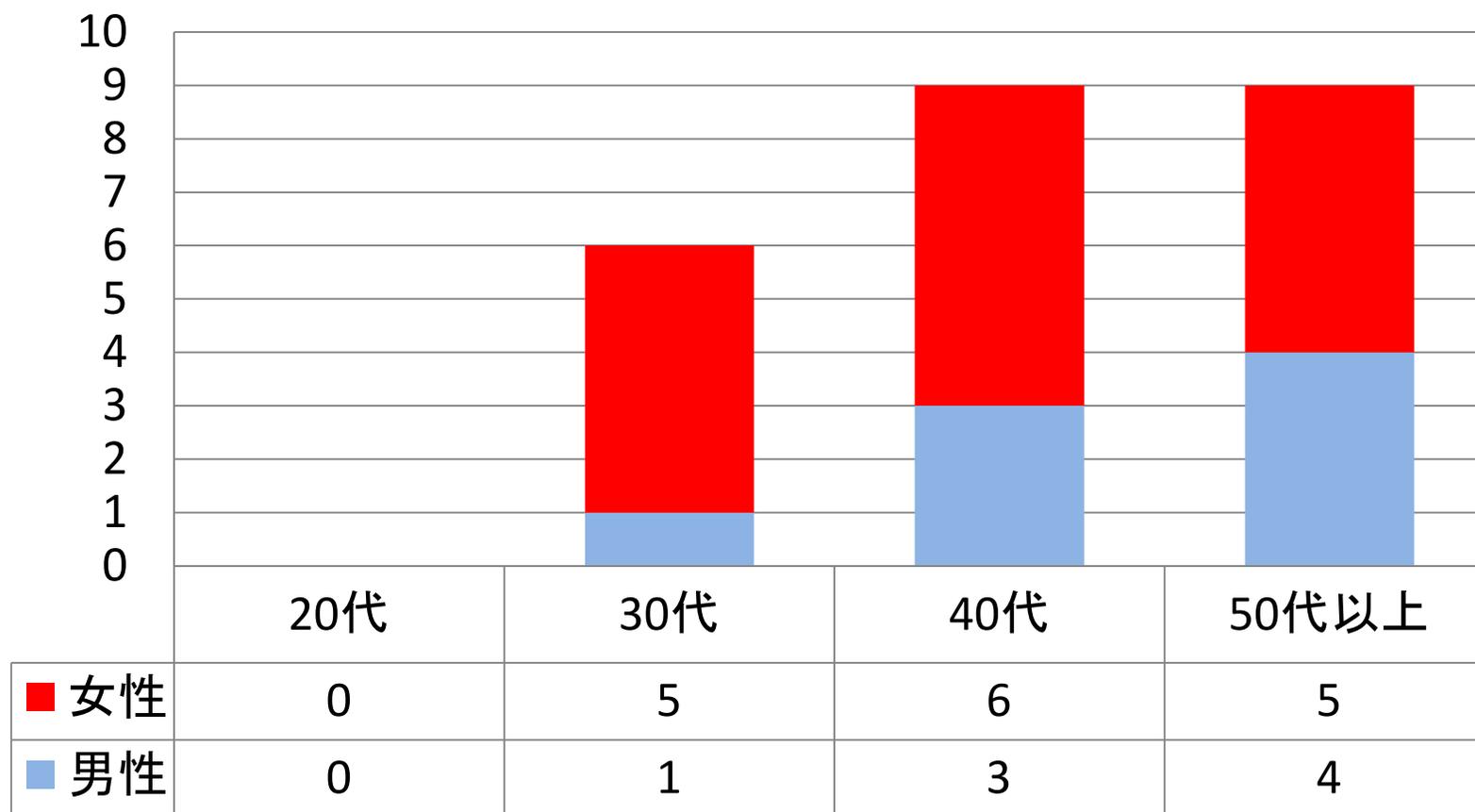
明治学院大学 専任職員 年齢構成



	20代	30代	40代	50代以上
■ 男性	7	22	29	27
■ 女性	9	31	18	23

2011年8月現在 合計166名

明治学院大学 専任図書館職員 年齢構成



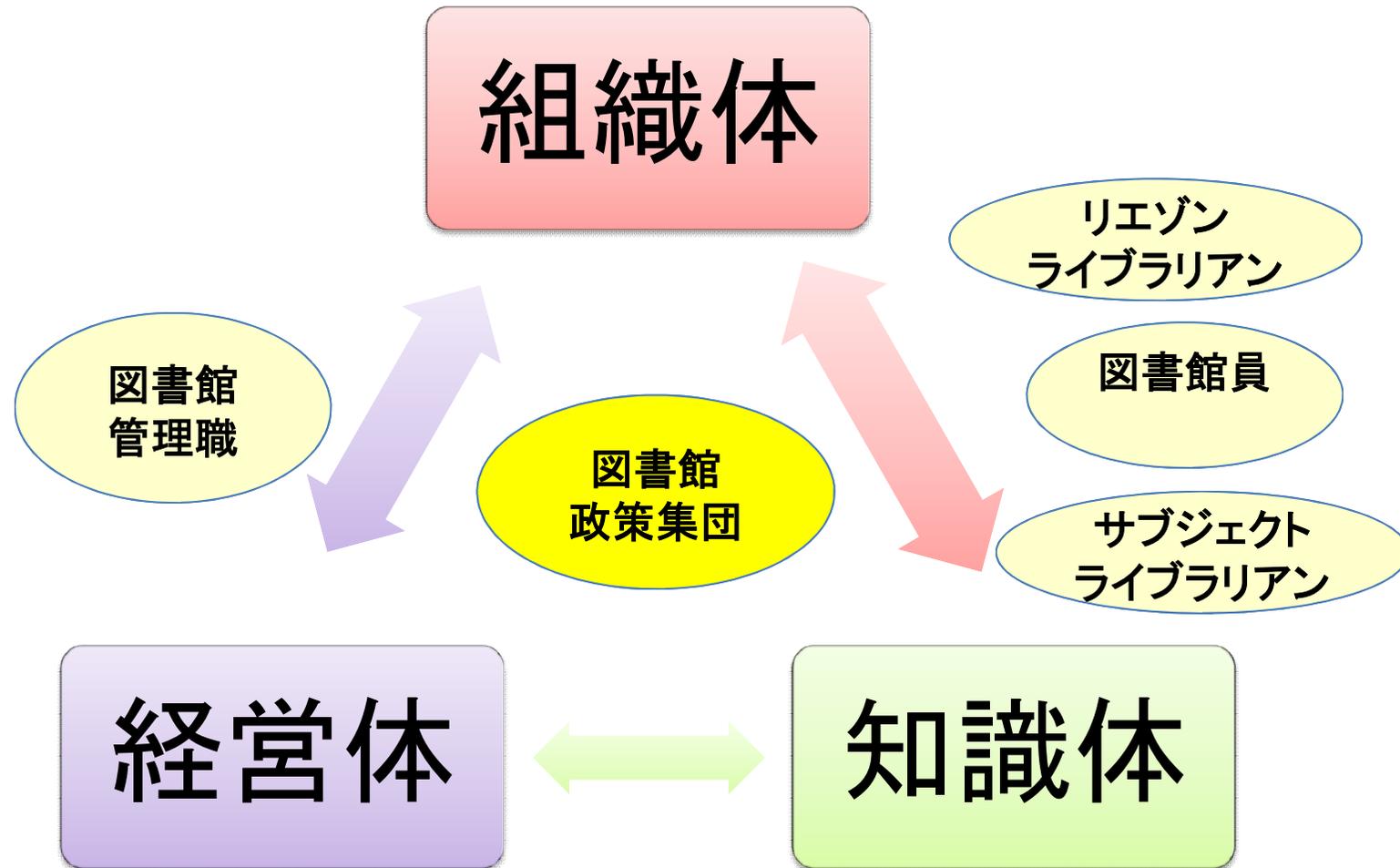
2011年8月現在 合計24名

大学図書館職員の育成と評価



- 大学職員と大学図書館員
ダブル・スタンダードかハイブリットか
職員としてのコンピテシーの維持
- 専門性を誰に求めるのか
特殊性への評価が二極化
- 授業ガイダンスにおける経験値とリカレント研修

図書館の3つの「相」と人材



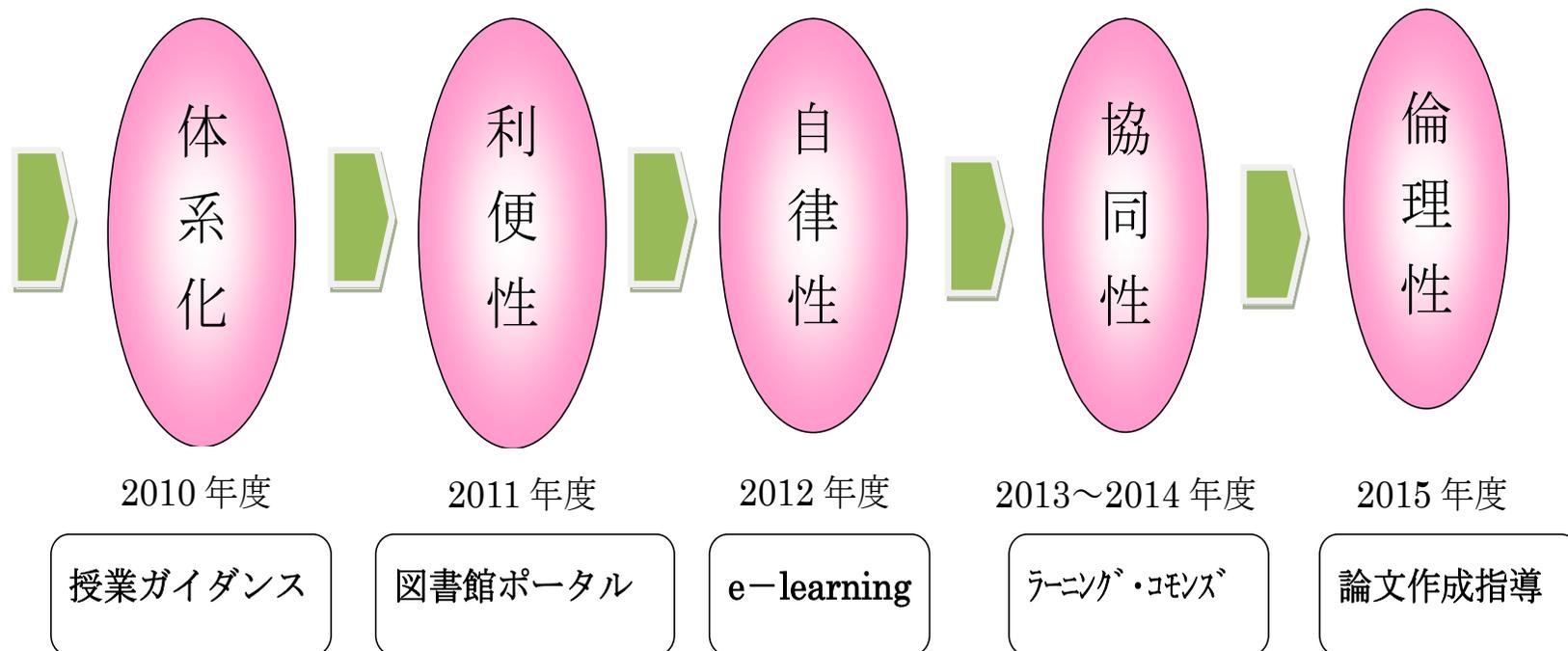
これからのストーリーを考える



- 複数のストーリー設定を用意
状況の変化に応じての選択的シナリオ
近未来予測の時系列的シナリオ
 - 館員参加型シナリオ
業務の創造性の役割分担: 章・段落・行・単語
図書館全体のモチベーションの維持
- ☆ 図書館全体を活性化させる仕組みが必要

学習支援サービスの展開

学習支援サービスに年間のキーワードを持ち、積層的に相乗効果を上げる。
キーワードは業務計画とその実行により想定される学習効果を設定する。



図書館組織体制のシナリオ

